第5回　課題

所属：E類情報教育コース

学籍番号：E205406

氏名：小林茶子

**課題：**

**自分なりのeラーニングについて求められる評価を考える。**

求められる評価の前に、私の考えるeラーニングとは、「eラーニングとは、インターネットを使用できる環境があれば誰もができ、学習者によって変化できる学習の一つである」と考える。学習者によって変化できるという意味には二つの意味を持たせており、一つ目はいつでもどこでも誰もがと、インターネットが使用できる環境下では利用可能という点での意味だ。二つ目は目的別に利用者が選べるという点だ。自分の学習したい内容、目的によってeラーニングシステムを選べる。例えば大学に通う物ならその大学から提示されたものを使う。一方、独自に学習したい場合はその目的や学習内容に合致するものを選べばよい。

このようなeラーニングに対して、どのような評価が必要かを考える。

まずこのeラーニングにおいては、（座学や演習に必要な）教材等を用いて学習する活動を通して、各々が学んだ知識や実技、学習を継続する能力を身につけることを考える。それを評価する方法としては二つ、学習者側が自身の活動に対して評価や比較ができるものとさらに良いeラーニングシステムにするためのeラーニングシステム自体への評価が必要だと考えた。

一つ目の学習者側が自身の活動に対して評価や比較ができるもとは、学習者の力がどれぐらい身についているか、学習前後での変化、身につけた知識が社会の点から見た際にどれぐらいの立場にあるかを測れるものが良いと考える。これに最適なものとしては身に付き度合いを確認できるテストや練習問題などが良いだろう。学習側が求める時に使用できることが一番良い状態だと考える。配信者側が定期的に配信するのであれば時間制限で消えるものではなく記録として残しておいた方が学習者側にとっては学びにつながると考える。またポートフォリオを活用した学習履歴により過去との比較ができ、より良い学習システムになると考える。しかし、ポートフォリオによる学習履歴などによる評価は難しいと考える。テストや課題の実施状況ならまだしも、アクセス回数やアクセス時間の合計などは実施回数や実施時間を偽装できるからだ。

　二つ目のさらに良いeラーニングシステムにするためのeラーニングシステム自体への評価としては、アンケートなどの授業評価が必要だと考える。生徒側が使用してみてどのように感じたか。良い点、悪い点などを聞く。それを学習者側からの評価とし、配信者側は利用履歴や課題やテストの状況などからの分析により評価する。この二つの視点からeラーニングに対しての評価を行い、改善点を探していくのがいいのではと考える。また、東京学芸大学でも学期が終わる毎に授業アンケートが実施される。他大学などでも行われている。例えば、帯広畜産大学では「学生による授業アンケートの結果」の見方と授業改善への指針1)を一般公開している。これにより、授業評価の実施状況や大学自体がどのように対応するかなどが示されている。このように評価結果を授業指針とし、改善していく意向を示すのは、学習者にとってもより良い学習環境になることへの期待ややる気にもつながるのではと考える。

この二つの評価視点から、成績評価と授業評価がeラーニングに必要な評価方法だと考える。

参考文献

１）[大学教育センター「学生による授業評価の結果」の見方と授業改善への指針 – 帯広畜産大学 (obihiro.ac.jp)](https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-class-viewpoint) （アクセス2021/5/26）

https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-class-viewpoint